

文化協会が地元を盛り上げます!!

みのくれ設立が キッカケの15年。

荻谷さんが江戸住宅地区の区長をしていたときに町に文化ホールをつくるのはどうか?という話があった。「町に文化センターができる」と聞いたとき、文化センターを地元の人にたくさん利用して欲しいと思ったんです。そこで、地元でコーラス団体を作って、歌の練習に使ったり、発表するハレの舞台になればと思います。そして平成3年に江戸住宅地区コミュニティセンターの完成にあわせてコーラスグループ「混声やまばと」が誕生しました。私は結成当初から代表を務めてきました」とこれまでの活動を振り返る荻谷さん「混声やまばと」は今年で結成15年になり、みのくれより5歳年上になります。小美玉市に合併してからはみのくれだけではなく、アピオス・コスモスの三館を活用するようにになりました」と話してく

新緑の季節になり、柔らかな若葉がごんごん膨らみ、みのくれをすっほり包みこみました。マイナスイオンのシャワーを浴びに来ませんか?藤の花が見事に天を仰ぎ、紫のベールで覆われた若葉も目を楽しませてくれますね。今回は文化協会美野里支部・支部長、江戸地区にお住いの荻谷哲司さん取材します。



文化協会美野里支部・支部長

荻谷哲司さん

「みの～れは来やすいところ。来ると楽しいことが待っています」とはにかんで語る荻谷さん。

みの～れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ
No.71

れた。

たくさん文化活動をする団体が増え始め、一九八一年、多種多様な文化団体の横のつながりを結ぶために、『文化協会』が発足したそうです。

「文化協会はこんなことをやっているんだと認めてもらえるような会にしたい。みのくれを使うみんなにも文化協会に興味を持ってほしい。若い世代から熟年世代まで幅広い年代が活躍できる魅力ある会を目指して、どうやって人を集めるかが今の課題でもあります」と荻谷さん。

また、荻谷さんは多趣味で、剣道やゴルフ、山登りをするなどとても活動的だ。山登りでは、二〇〇m級の山にも挑戦したそうだが昔からスポーツマンで、若いころもスキーに行ったり、走ったりしており、それが荻谷さんの若さを保つ秘訣のようだ。

6月2日には「岡田 渉 室内楽コンサート」を企画。

「今回は、ちよっと品を高くして、ちよっと背伸びする、クラシッ

クコンサート。お客さんの反応が楽しみです。一人でも多くのお客さんに見に来てもらいたいですね。年に一回は、文化協会が教養のあるコンサートを企画して、地元を盛り上げるような役割を果たしたいし、みのくれの利用頻度も上げたいです。6月2日のコンサートのチケットもまだありますのでぜひお越しください。」と生の演奏に触れる機会の少ないクラシック音楽に耳を傾けて欲しいと願っていました。

みのくれ10歳記念事業のテーマソングにも参加した荻谷さんは「みのくれは来やすいところ。来ると楽しいことが待っているところかな?最初は本当にみのくれは多く人に利用されるのか心配でしたが、それをよそに人気があつて早くから予約を入れないと大ホールである『森のホール』が借りられないくらい盛況ぶりにびっくりしています」と優しい笑顔が素敵だった。

(藤田佐知子)